

平成30年度 第1回図書館協議会

- 1 日時 平成30年6月21日(木)13:30~15:00
- 2 場所 飯田市立中央図書館2階研修室
- 3 出席者(委員) 今村委員、竹内委員、中村委員、福澤委員、林委員、矢澤委員、西森委員、  
久保田委員、塩澤委員  
(事務局) 櫻井図書館担当専門幹、瀧本館長補佐、矢澤上郷図書館長、関口県図書館長、  
中平ビジネス支援係長、樋本主査  
(司会) 中平ビジネス支援係長
- 4 辞令交付(塩澤委員)
- 5 櫻井図書館担当専門幹 挨拶
- 6 会長挨拶
- 7 会議事項
  - (1) 平成29年度事業報告及び平成30年度事業計画について
  - (2) 南信州図書館ネットワークについて
- 7 事務局からの事務連絡
  - ・中央図書館 行事予定(村上春樹読書会、第4回~第5回文学連続講座、おはなしトラベル、  
講座「日夏耿之介の人と文学」)

\*\*\*\*\*

8 会議内容

(1) 平成29年度事業報告及び平成30年度事業計画について

○事務局 (図書館概要により説明)

資料3ページ

- ・第3次飯田市立図書館サービス計画の体系図及び図書館サービス計画の概要を説明。
- ・「全域サービス」について、平成29年度は分館での予約やリクエストの推進に取り組んだ。予約冊数は前年度と比べて262冊増え、前年度比104.6%となった。平成30年度は、分館に地域資料を取りそろえ、分館を地域の学びに活用してもらえよう「郷土資料の充実」を図る。
- ・利用者を増やす取組として、特に館外での新規登録や貸出の試行を行った。平成30年度は、この試行を踏まえ運用上の要綱を整備し、本格的に館外貸出に取り組むことで利用者の増加につなげる。
- ・平成29年度は南信州図書館ネットワークで使用するコンピュータシステムの更新に伴い、セルフ貸出や貸出シール打ち出し機能及びインターネット上での書棚表示機能を導入し、利用者の利便性向上を図った。セルフ貸出や貸出シール打ち出しは、利用者数は少ないが、必要な方にご利用いただいている状況である。
- ・システム自体は、大きな問題もなく順調に運用している。

- ・「郷土資料の収集」について、平成29年度は新たな取組として、飯田印刷工業組合にチラシを配布し、新聞等の発行情報にも掲載されない郷土資料も含め、収集への協力を依頼した。
  - ・情報発信については、ホームページをリニューアルし、調べものや子ども、飯田の地域情報などのページを作成し内容の充実を図った。
  - ・平成30年度は引き続き郷土資料の網羅的収集に努めるとともに、レファレンスのPRや周知に取り組む。
  - ・中央図書館では地元新聞のデータベースについて活用講座を計画している。また、地域の講座等へも出向き、関連資料のリストを配布するなどし、図書館利用についてPRを継続する。
- 
- ・「読書活動推進」について、「はじめまして絵本」事業では対象者の99.4%の家庭に絵本を手渡した。アンケートの結果から、家庭における読書の推進に活用されているとの結果を得ている。
  - ・今後、乳幼児から幼児、幼児から小学生へと継続した読書活動をどのように推進するか検討する必要がある、保育園や学校との連携を深める。図書館への来館を促すことに留まらず、全市での読書推進のための体制づくりに取り組む。
  - ・平成29年度は、保育園とどのような取組が可能か協議した。平成30年度も引き続き子どもの読書推進を行う方法の検討を行う。
  - ・10代から30代の図書館利用減少傾向に対し、特に若い世代に向けて、平成29年度は学習室を利用する学生に対し図書を紹介コーナーを作成した。また、若い世代向けに始めたフェイスブックの情報発信が軌道に乗り始めた。平成30年度はこのフェイスブックの閲覧状況等の分析を行う。

資料4 ページ サービス計画の「アクションプラン」別の指標及び目標値について説明。

- ・分館での予約受付件数は、昨年度に力を入れて取り組んだことにより目標を達成している。今後は、引き続き努力していくが指数値はほぼ頭打ちになっていくものと思われる。
- ・有効登録者利用率（飯田市民のうち平成29年度の1年間に図書館を利用した市民の割合）は16%であった。取組の柱の一つでもある図書館を活用していただく努力を引き続き行う。
- ・蔵書冊数も目標値を達成しているが、平成29年度にコンピュータシステム更新事業があったこともあり、除籍作業が十分に進まなかったことが影響している。予定通りに除籍作業が進んでいけば、ここまでの目標達成に至っていないことをご報告しておく。
- ・ビジネス支援関連の蔵書数も同様の理由により目標値は達成しているが、蔵書の整理が進んでいない影響がある。
- ・次世代育成のための「よむとす」については、非常に高い率で「はじめまして絵本」を手渡している。

資料6 ページ 統計数字について説明。

- ・蔵書は受入等による増加が28,003冊、除籍等による減少が2,791冊、平成29年度の蔵書冊数は811,241冊である。うち児童書は286,532冊である。

資料7 ページ 受入状況について説明。

- ・中央図書館は郷土資料を網羅的に収集していることから比率が高くなっている。

資料9 ページ 一般書の内訳について説明。

- ・中央図書館はビジネス支援関連で生活や暮らしに役立つ資料を揃えていることから社会科学の割合が多い特徴がある。具体的には資格、経済、法律や福祉関連などである。
- ・県図書館は読み物が多いことが特徴的である。

資料11ページ 児童図書の内訳について説明。

- ・上郷図書館は、児童図書に力を入れており受入冊数が多くなっている。中でも絵本が多い。

資料13ページ リクエスト購入冊数等について説明。

- ・市民からのリクエストに応じて購入した実績は、全体の購入冊数のうち15%を占めている。
- ・製本については、壊れて修理した「修理製本」が15冊、絶版等で新たに入手困難な本を貸出に供するため複製した「複製版製本」が58冊で平成29年度は例年より多く取り組んだ。

資料15ページ 貸出の状況について説明。

- ・利用登録者は36,310人、貸出利用者は199,036人、貸出冊数は762,792冊であった。
- ・年齢別利用状況は、平成24年度と比較して児童の利用登録は横ばいであるが、一般は減少している。特に10代後半が1.7%、30代は1.4%と大きく減少している。

資料17ページ 利用登録者の状況について説明。

- ・利用登録している者のうち飯田市民である割合は89.5%。飯田市民が平成29年度に図書館で本を借りた人口割合は16.1%であった。
- ・来館者数は平成28年度と比較して減少している。これは、コンピュータシステム更新のための休館期間が影響している。
- ・予約については増加傾向で、インターネットや館内OPACからの予約が増えている。また、分館での予約件数が増えている。

資料19ページ 中央図書館の新聞閲覧システム及び国立図書館デジタル送信の利用状況

- ・国立図書館デジタル送信サービスの利用、信毎データベースの利用が増えている。

- ・ 南信州新聞の平成25年分をデジタル化し、新聞閲覧システムに搭載した。
- ・ 飯田の文化人が飯田に関する様々な話をしてきた「話の会」の記録テープで、中央図書館所蔵のものと松岡屋醸造所蔵のものと併せたもののうち、昭和45年から50年までのものをデジタル化しパソコンで聞くことができるようにした。
- ・ 南信州図書館ネットワーク加入自治体間の相互貸借状況のうち、飯田市では平成29年度は12,866冊を貸し出し、15,961冊を借りており、借りた方が若干、多くなっている。なお、喬木村が平成29年7月から本ネットワークに加入した。

資料21ページ 貸出冊数の推移及び貸出利用者数の推移について説明。

- ・ コンピュータシステム更新に伴う休館があったため一定の影響が出ていると史料する。
- ・ 県図書館と上郷図書館では貸出利用者が増加し、県図書館は貸出冊数も増加している。

資料27ページ 実施事業について説明。

- ・ 平成29年度図書館特別資料展では「飯田線」をテーマに取り上げ、市民、関係団体の協力により多くの貴重資料をお借りし実施した。
- ・ 「Wikipedia Town in 飯田」を平成29年度に初めて実施した。Wikipedia日本版の管理者を講師に、その編集技術を習得する講座である。その編集過程においては現地を歩き、郷土資料にあたるなどして裏付けのある記事を掲載する。このことは、飯田の郷土についての情報発信につながるとともに、図書館の郷土資料活用を図ることにつながると考える。
- ・ 児童向け講座は、継続した取り組みが重要であると認識している。

資料29ページ 地域と連携した事業について説明。

- ・ 「はじめまして絵本事業」は、市保健課との連携事業である。7か月と2歳の健診会場に出向き親子向けの話をしている。対象家庭の97%に対して取り組みができる機会となっている。
- ・ 学校、保育所との連携行事は、図書館と各機関とを相互に行き来しながら行事を行っている。取組の様子から、地域に偏りがあることが課題である。

資料31ページ農家グループ「ゆうきびと」との連携事業について説明。

- ・ 定期的に季節の野菜をモチーフにしたブックカバーを配布し、地元生産者を紹介している。おはなし会や講演会等の機会に地元野菜の展示や、消費者と生産者との交流を図った。

資料32ページ 図書館外での図書館のPR活動について説明。

- ・ 平成29年度は館外での図書館PRに併せ、本の貸し出しを試行した。

資料33ページ 分館のサービス一覧について説明。

- ・各分館とも、地域に密着した行事を行った。

会長

何かご意見、ご質問はないか。

委員A

- ・53ページの予算額について、30年度は29年度と比較して17,000千円余の減額となっているが、これはコンピュータシステム更新事業によるものか。
- ・図書館概要の配布先はどうなっているか。分館にも配布すれば、働いている方も参考になると感じる。団体役員にも配布可能であるか。
- ・59ページの図書館関係団体の紹介は、もう少しページを割いて具体的な取り組みを記載されたい。

事務局

- ・予算については、お見込のとおりである。ここ数年は図書館費が削減の傾向にある。施設維持費が増加する分、図書費が減額される年度があった。平成30年度の図書費は平成29年度ベースを維持している。
- ・図書館概要については、紙ベースでの配布も依頼により可能である。広くご覧いただける環境としてホームページで公開している。
- ・関係団体の紹介は、かつてはページ数を割いて掲載してきた経過がある。現在は資料掲載ページ数も増大するなかで全体のページ数との調整を図った。必要な団体には活動記録の参照文献を記載しているのでご覧いただける。

委員A

- ・ホームページを見れば、この資料すべてが見られるか。

事務局

- ・今回の資料は9月議会で決算が承認されるのを待って公開する予定である。個別に資料を要望される場合は対応する。
- ・分館には毎年、配布してきている。

委員B

- ・中央図書館では、木曜日に限って夜8時まで繰り下げ開館を始めて10年が経過するが評価はどうか。
- ・木曜日以外も開館延長を望む声がある。

事務局

- ・利用の傾向は仕事終わりのビジネスマン、学校や保育園の先生が多い。
- ・新規に利用が増えるというよりは利用者が固定し、利用時間の選択肢が増えた状況である。
- ・夏に陽が長くなると利用が増え、短くなると減る傾向がある。
- ・20時頃の利用は増えないが、18時30分頃までの利用は増えている。
- ・開館時間延長のご意見は多くない。

- ・時間延長により利用者が増加したというよりは、固定利用者の利用時間の選択肢が増えたという状況と、職員体制や経費を踏まえた検討が必要であり、現在のところさらなる開館延長を考えていない。

会長

- ・図書館ネットワークに加入している他館の開館時間はどうか。

事務局

- ・高森町は金曜日が19時まで、夏の期間は金曜日のみ21時まで。
- ・松川町は月曜と金曜日が21時までだが、17時以降は職員でなく公民館係員が対応するため貸出業務中心となる。
- ・豊丘村は毎日19時まで。
- ・椋鳩十記念図書館は夏の期間は19時まで延長を行う。

委員C

- ・これまでなかった他の機関との連携が増えている。良いことだと思うので、このまま継続されたい。

会長

続いて「(2)図書館ネットワーク」について、事務局の説明を求める。

事務局

〈ホームページの機能説明〉

会長

ご質問などあるか。実際にご活用いただきたい。その他にもご意見等あれば。

委員D

- ・図書館分館の活動は、公民館と密接な関係がある。公民館長会において、図書館サービス計画や分館所蔵の資料の利用状況について、市内に20館ある館長に対して報告した。
- ・今回の更新されたホームページもよくできている。まずは利用いただくことと、委員には分館活動にも注視いただくことをお願いしたい。
- ・図書館分館長主事会が開催され、意見交換されるなか、どの分館も頑張っている様子を参加した分館長から聞いた。そのようなことも含め、今後も公民館長会に報告したい。

委員E

- ・30代の利用減少について思うとき、今の34歳くらいの世代が中学生の頃、当時、使われていたポケベルが携帯に代わった。もう少し年代が上の人たちは、高校生の頃に携帯が普及した時代だったと思う。そうした世代がいま30代になって、小さな子どもさんを育てている。いろいろな世代向けの図書館利用を考えるなかで、今の小中学生が小さかった頃の時代背景は影響が大きいものと受け止める。
- ・中学校でも読書指導は行われているが、幼少期の時代にあわせた指導が必要と思う。

委員F

- ・市内の分館に規模の大小はあるが、小学校でも各地区の分館を活用している。今後も引き続き連携をお願いしたい。

- 委員G
- ・保育園で小さな子どもたちが本を見ている姿を目にして安心した。
- 会長
- ・本館で本の切り取り事件があり、新聞に掲載された。分館で同様のことは起きていないか。
- 事務局
- ・分館では起きていない。
  - ・過日の新聞報道で、ある大学図書館から本が大量に盗まれた事件があった。その記事にも掲載されていたが、対策として地道な声かけが有効であるとされていた。
  - ・分館は来館者と近い関係で、係員は来館者の顔も知っており声かけも十分になされている。このような環境から、切り抜きや盗難などが少ないのではないかと考える。
- 会長
- ・監視カメラをつけるほどではないが、気を付けていただきたい。
- 事務局
- ・広報いいだ6月号では図書館利用のPRが親しみやすい形態で掲載された。市の広報部門と連携して良い事例だったと思う。そのような意味で、多くの関係機関と連携して柔軟に取り組んでいきたい。
  - ・ホームページの機能がどこまで市民に周知されているか、ということがある。今後も十分に浸透するよう取り組んで参りたい。
  - ・過去に防犯カメラ設置について議論されたことがある。この時は設置に至らなかった。地道な声かけや見回りを行い安全な開館運営に努めてまいりたい。
- 会長
- 以上をもって協議会を閉じる。